

【会議結果報告】 平成30年度 第2回 雲仙市総合計画等審議会

日 時	平成30年10月31日（水）14：00～16：00
場 所	雲仙市役所 別館3階 会議室1～3
出 席 者 （順不同）	内田委員、寺尾委員、竹下委員、百崎委員、川上委員、深尾委員、絹中委員、 土井委員、池田委員、中村委員、宮崎委員、町田委員、関委員、力野委員、 山口委員、境川委員、富岡委員、佐々木委員、小森委員、酒井委員 （委員10名欠席）
事 務 局	総務部 政策企画課
概要	【概要】 第2次雲仙市総合計画・地方創生関係交付金平成29年度効果検証 【主な意見】 ・（定住促進対策事業（婚活支援事業）） 若者は結婚願望があっても、経済的理由でできないでいる。 国の交付金を活用し、その支援が必要と考える。 ・（定住促進対策事業） 広報うんぜんやホームページでの周知は、見ていない方がいる。 今後の情報発信するうえで「見てもらうための情報提供」が必要 ではないか。 ・（定住促進対策事業（お試し住宅）） 今後施設を増やせないか。 ・（自治会活動活性化交付金） 視察先が伊万里市なのはなぜか？ ・（高齢者等見守りネットワーク推進事業） 積極的な呼びかけを行っているものの、なかなか広がらない。 災害に備えた見守り隊や生活支援を行う手伝い隊といった組織が旧町ごと に立ち上げられないか。 その両者の相互協力により、いざというときの大きな力になると考える。 ・（農業人材力強化総合支援事業、農業就業者確保育成対策事業、 担い手育成総合支援事業） 自身の周囲で問題となっているのは、後継者がいない農家。 後継者がいたとしても就農に併せて市の補助の手続きなど、様々な負担が かかる。 このような後継者の支援を行う体制づくり、組織が必要と考える。 またこの組織は市が一手に担うものでなくても、いろんな団体が協力し 合えば可能ではないか。 ・（吾妻ふるさとふれあい館運営費、千々石農産物直売所運営費） 本市で交通の便が良い愛野町、吾妻町に大規模な雲仙市による直売所、 道の駅を作るべきと考える。 結果、高齢の農家も最期まで農業を続けることで健康にも役立つの

	ではないか。雲仙市の大事な政策であると考える。 ・（海外宣伝誘致事業、国内誘致事業（宿泊客の観光消費額）） 雲仙市の宿泊施設のダウンサイジングに伴い、単純に観光客数を指標とすると判断を誤るのではないかと考えており、より正確な観光消費額を把握することでいろんな対策が出るのではないかと思う。 回答にある指標の把握を具体的にどうするのか。 ・（6次産業化推進支援事業） 福岡県糸島市の事例が1つのモデルとなると考えている。 6次産業化により、先のような直売所を設置しようとする団体があるとき、市は支援するなどの方向性は持っていないか。 ・（公共交通対策事業） 本市は県内でも高齢者が関係する交通事故が多い。 高齢者の免許返納を薦めると、買い物タクシーがあれば返納するとの話を聞く。 高齢者の足代わりとして、旧町、最終的には各自治会単位で週1回買い物タクシーを運用することはできないか。 今後、買い物にも行けなくなる高齢者が孤独死してしまうことを恐れている。
--	---